

貸借対照表

(2023年3月31日現在)

イーテック・ジャパン株式会社

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	318,411,215	流動負債	95,196,723
現金及び預金	103,998,638	買掛金	26,303,804
受取手形	0	工事未払金	23,249,371
電子記録債権	2,100,000	未払費用	8,827,462
売掛金	88,164,045	未払金	6,341,962
完成工事未収入金	100,182,643	賞与引当金	17,148,000
未成工事支出金	18,776,195	前受金	574,754
前払費用	5,028,061	未成工事受入金	2,200,000
仮払金	4,800	預り金	2,324,957
未収入金	156,833	未払法人税等	3,759,113
		預り消費税	4,467,300
固定資産	30,601,084	固定負債	36,363,726
有形固定資産	1,433,605	従業員退給引当金	36,363,726
工具・計測器	381,748		
備品	1,051,857		
		負債合計	131,560,449
無形固定資産	0	(純資産の部)	
		株主資本	217,451,850
		資本金	10,000,000
		資本剰余金	45,000,000
		資本準備金	
		その他資本剰余金	45,000,000
		利益剰余金	162,451,850
		利益準備金	2,500,000
		その他利益剰余金	159,951,850
		別途積立金	
		繰越利益剰余金	159,951,850
		評価・換算差額等	0
		その他有価証券評価差額金	0
		純資産合計	217,451,850
資産合計	349,012,299	負債・純資産合計	349,012,299

個別注記表

自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日

I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準および評価方法

未成工事支出金

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、1998年4月1日以降取得の建物(建物附属設備、構築物を除く)、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物並びに機械及び装置については定額法)を採用しております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法(ただし、ソフトウェア(自社利用分)につきましては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法)を採用しております。

(3) 長期前払費用

均等償却を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与支給に備えるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。

(4) 受注損失引当金

受注案件の損失に備えるため、受注済案件のうち当事業年度末において、損失の発生する可能性が高いと見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積ることが可能なものについては、翌事業年度以降に発生が見込まれる損失額を引当計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づいて計上しております。

なお、退職給付債務の見込額は、簡便法により計算しております。

4. 収益及び費用の計上基準

年間契約に基づく保守メンテナンス及び維持管理業務は、一定の期間にわたり、履行業務を充足する取引であり、経過期間に応じて収益を認識しております。

個別契約によるスポットメンテナンスは、履行業務が一時点で充足される取引であり、顧客にサービスが提供された時点で収益を認識しております。

工事契約による既設設備のリニューアル工事や新築設備工事などは、一定の期間にわたり履行業務を充足する取引であり、履行業務の充足に係る進捗に基づく収益を認識しております。なお、履行業務の充足

に係る進捗率の見積りの方法は、主として見積総原価に対する発生原価の割合によっております。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

II 当期純損益金額

当期純利益

16,731 千円